

逆説的私漫画

さく：ハゲちゃん え：まゆげ 飛龍 Vol.10



ニュース

ホームページ更新！



「台湾へキックオフ旅行に行ってきました。」というコンテンツがHPのTOPICSに更新されています。どうぞキックオフを振り返ってみてください。

ルーキーズ ああ、同期っていいもんだ。



新入社員
企画！

「ルーキーズ」こと新卒の新入社員6人の親睦を深めるために、4月の某日にボーリングに行ってきました。オフィスでは見れない一面を垣間見ることができました。担当は、ルーキーであり広報チームに新配属となったシライです。

ルーキーズの生・態・チ・エ・ツ・ク！



社内ではしっかり者の岡崎さんがまさかの 40 分遅刻。ですが、到着早々、「今日勝負だね？」とひとこと。ボーリングであっても白黒はつきりさせる性格は健在。お酒が大好きで居酒屋さんで働いていた彼女は終始ビールを飲み続けていました。



第1 投目はインディーズで CD も出したバンドのドラマーである宮原くん。みんなが準備途中にいきなり投球！ガーターを出すたびにボケていましたが、ずっとスベっていました。社内では面白いアイデアを次々と思いつく彼もプライベートでは面白いボケは出てこないようです。



投球前にボールを磨きに磨いていたのはこだわりが人一倍強い趙くん。大学時代はプロダクトデザインを学んでいました。いい投球の後、ドヤ顔で「わかった。この感じね。」と言い放った後の投球はほとんどガーターでした。



お笑い事務所でバイトをしていた佐藤さんは、他の人の投球にちょっかいを出して邪魔をするなどお茶目な部分が見えました。ストライクの時は喜びすぎてタッグを組んだ大山さんを吹き飛ばすほどのパワフルさも持っています。



安定した投球を見せるのは演劇経験のある大山さんです。落ち着いたフォームから安定の投球、綺麗なフォロースルー。仕事と同じく私生活でも堅実なようです。帰りはみんなとご飯に行かず、すぐにお帰りになられました。

中堅社員が綴る暗黒時代。
そして、光が見えた瞬間。

あの時のトンネル

第10回

田村 ダン
(後編)

「暗すぎるトンネルから抜け出したい」わらにもすがる思いで始めた転職活動で、運よくパラドックスに入社した私。その後は、がむしゃらに働いたように思います。それまで自分のコピーは埋葬されるか、とんでもなくダサくなって世に羽ばたいていくかだったもので、小さな採用広告の枠でも、自分の考えたものを自分でプレゼンし、いいなと思うカタチで世に出ることが、奇跡のように嬉しかったです。

そんなこともあって、忙しいけれど不思議と元気になっていきました。もちろん、未熟ゆえに日々は七転八倒。先輩とのコピーチェックでは「これはコピーになってないよね(笑)」と一蹴されたり、スタンスの甘さを指摘され、メールを読みながら悔し泣きしたり、最終的には一挙手一投足注意されるので、寝る前に注意された事項がフラッシュバックして「フアあつ(涙)」ってなったり。

そんなことを繰り返し、半年。不思議なことが起こったのです。お客様に「田村さんにやってもらったよかった、ありがとう」と言われるようになってきたのです。「え？？こんな私に：？ここ、こちらこそありがとうございます！（心の声）」すると、世界にかかっていた呪いが魔法のように解けていくのがわかりました。なんだかトンネル自体が溶け、視界がバアアとひらけたような。ん？そっか。トンネルなんて、最初からなかったんだ。

暗い方へ暗い方へと潜っていたのは、うまくいかないことを人のせいにしていた自分。お客様の熱い志を受け止め、本気で返す。下手でもいい、それっぽいコピーじゃなくて本当に自分が感じたことを。そんな当たり前のことができるようにになり、誰かに必要とされ、一人の人間として素直に、血と心の通った仕事ができるようになった時。周りを囲んでいるのはトンネルではなく、愛ある先輩と、期待してくれる愛しいお客様だったと気づいたのです。（完）



新チーム紹介④